



学生時代にしかできない
自律的な活動が、ここにある。

地域に
飛び出せ!



Vol.5

S・O・S

Students' Organization for Self-help and Official Support

認定活動報告集



一緒にやって
みんなかえ?

平成25年度 高知大学S・O・S認定団体

- わっ花 一花を通じて繋がるー あぐりい〜ず
- 献血促進プロジェクト いのちのリボン
- 高知大学国際協力団体 すきっぴ
- 高知大学生が行く ウラ学のススメ ウラ学同好会
- インプット高知 はちきんチェルシー
- 高知大学フリーペーパー発行 Boshipan
- 高知長寿いきいきプロジェクト 百遊会
- +Bousaiプロジェクト 高知大学学生ボランティアセンター
- 就活生活プロジェクト ジョブハン

活動メンバー募集中!

高知大学では、
学生同士の相互扶助(ピア・サポート)を中心に、学内の活性化、
地域貢献に積極的に取り組む学生団体を公的に支援しています。



Contents

- S・O・S認定活動報告
- 01 巻頭のことば —— 大学教育の新しいかたち
 - 02 S・O・Sに寄せて
 - 03 S・O・S認定活動を知っていますか？
 - 05 ● わっ花 — 花を通じて繋がる — あぐりい〜ず
 - 06 ● 献血促進プロジェクト いのちのリボン
 - 07 ● 高知大学国際協力団体 すきっぴ
 - 08 ● 高知大学生が行く ウラ学のススメ ウラ学同好会
 - 09 ● インプット高知 はちきんチェルシー
 - 10 ● 高知大学フリーペーパー発行 Boshipan
 - 11 ● 高知長寿いきいきプロジェクト 百遊会
 - 12 ● +Bousaiプロジェクト 高知大学学生ボランティアセンター
 - 13 ● 就活生活プロジェクト ジョブハン
 - 14 2013年の活動の詳細
 - 15 コラボレーション・サポート・パークからのお知らせ
 - 17 総合教育センター 修学支援部門の取り組み

巻頭のことば

大学教育の新しいかたち

高知大学 総合教育センター長
教育学部 教授 藤田 尚文



社会人基礎力という言葉をご存じだろうか。これは経済産業省が平成18年に発表したもので、いまどきの若者に不足しがちで、かつ社会が求めている力をまとめたものである。これは「前に踏み出す力」「チームで働く力」「考え抜く力」の3つの要素から成り立っている。S・O・Sの活動は、この社会人基礎力を磨くのにぴったりの活動である。ご承知のようにS・O・Sは学生の自主的な組織であり、それを支援する教職員の組織である。「私たちは、頑張る学生を応援します」のキャッチコピーが示すように、学生の自律性を重視し、また学生の社会性を涵養することに重きをおく。そこでは自ら問題を発見し、解決することが求められており、自分たちの活動に関して考え抜くことが求められる。S・O・Sは正課外の活動ではあるが、これからの高知大学の教育にとって欠くことのできない活動である。高知大学は「自律」と「協働」をキーワードとして、地域に密着した大学になろうとしている。大学のそういった取り組みとともにS・O・Sがさらに成長していくことが期待されているのであり、学生諸君のピアサポートを目的とした活動と地域活動・地域貢献を目的とした活動を我々教職員一同もこれまで以上に応援することが求められている。

S・O・Sに寄せて

私たちは、頑張る学生を応援します

地味で地道な活動が S・O・Sの神髄

人文学部 教授 池田啓実



10年が経過したS・O・S設置の契機は1997年度に始まった全新生のパソコン必携化でした。まだまだパソコンの活用が日常的ではなかった時代、円滑な必携化には、学生による学生のための自律的な支援が必要と考え組織化したのがS・O・Sです。その後、ミッションは、現在のような学生サポートや社会的課題の解決を目指す学生グループの支援へと大きく変貌しましたが、「地味で地道な活動」はこれまで一貫して重視してきています。

実は、この視点は実際の仕事においても重要です。新日鉄ソリューションズ(株)人事部部長にして本学客員教授でもある中澤二郎氏は、「しごと」を性格(壁と穴)と種類(日常と非日常)で観ると、その8割は繰り返し作業(日常)であり、業務埋没的(しごと壁)なものだといふ。しかしかたや、そうした仕事こそが社会を下支えし、人はそれに正対することを通して他者の「信頼」を得る、あるいは「問題と変化」への対応力を磨き、「まだ見ぬ自分」にも会える(成長)と言うのです。

S・O・S活動は、社会的課題の解決、企画立案力などに目が行きがちですが、中澤氏が指摘するように、質の高い他者に必要とされる活動であるには、地味で地道な活動を通して得た「信頼」が基盤になければなりません。S・O・Sスタッフはむしろのこと、これに関心のある学生の皆さんにも、ぜひこの点を意識してもらえればと思います。

学生の主体的な活動の 支援に関わって

教育学部 教授 小島郷子



S・O・Sの活動に関わるようになって10年以上が経ちます。パソコン必携がスタート直後の情報セクションから関わっていましたが、当時は学生の支援というより、学生が正課外活動に自主的に関わる中で、何を学び何が得られるのかを、学生から学んでいたように思います。学生の主体的な活動はコミュニケーション力や企画力の育成に役立つことはもとより、地域をフィールドとすることから、地域貢献の一端も担っていることを学びました。地域をフィールドとした活動を展開する場合、学生や大学側だけにメリットがあるのではなく、両者がWin-Winの関係でありたいと思います。

私は教員養成に携わっていますが、大学4年間で実践的指導力をもった教員を養成して、教育現場に出すことが求められています。教員をめざす学生にとって、学習チューターなどのボランティア活動が教員に必要な実践力の育成に役立つことは間違いありませんが、そのことが子ども達のためになっていることを願っています。

高知大学のS・O・Sの取り組みは広く評価されていると思います。これからも、正課外の学習が、学生にとって価値あるものになるように、支援していきたいと思っています。

S・O・Sの理念

共通教育実施機構 教授 辻田 宏



2005年度までのS・O・S活動は、情報セクション及び国際セクションに特化していましたが、2006年度からはその区分をなくして、学生の申請に基づく多種多様な学生によるピア・サポート活動をS・O・Sとして幅広く認定し支援を行うことになり現在に至っています。その際の制度設計には3つの基本原則がありました。

まずその一つは、「公共性の担保」ということです。当該活動は学内すべての学生に開放され、合理的な理由のない限り、参加を希望する学生を拒否できないというものです。二つ目は、「貢献性の追求」です。活動(プロジェクト)内容は、大学(学生)や地域(社会)をより良くしていくという側面を有している必要があります。三つ目は、「自律性の獲得」です。活動(プロジェクト)に参画する学生は、ピア・サポート活動及び人や社会との協働を通じて自らの自律性や社会性の涵養を図る努力をしなければなりません。

あれから、5年が経過しました。この間素晴らしい取り組みもなされていますが、改めてこの3つの原則に基づいて検証を行う時期に来ているのかもしれない。もちろん、それによってはこれらの原則に見直しも必要になるかも知れません。

人の役に立つ喜び

総合教育センター社会協働教育部門
リエゾンオフィス室長
特任講師 今城逸雄



これまで多くの学生プロジェクトを見てきました。その中で気付いたことは、社会とつながっている団体は強いということです。学生同士だと許されても、社会では許されないことが多くあります。そこに責任感が生まれ、共に達成した喜びが活動を前に進める力になるのでしょう。

大学までの勉強の評価は、個人の中でのことです。そこに留まらず社会に踏み出し、学外の大人や子どもから喜ばれ評価をいただくことは、学生にはとても新鮮な経験のようです。

幼い子どもは人の役に立ちたい気持ちでいっぱいです。もちろん大したことはできませんが、「ありがとう」と喜ばれるたびに自信を深めていることが伝わってきます。この人の役に立つ喜びは、社会を豊かに発展させる“働くこと”の本質だと思います。

S・O・S認定団体の活動は、自分たちがやりたいだけでなく、どれも誰かの役に立ちたい、社会に貢献したいという思いがあふれています。時には躓いたり、うまくいかないこともあるでしょうが、仲間と一緒にたくさんの喜びを味わってほしいと思います。

S・O・S認定活動を 知っていますか？

総合教育センター
修学支援部門長



S・O・S支援部会長
准教授 玉里 恵美子

S・O・S認定活動とは

高知大学S・O・S認定活動をご存知ですか。S・O・Sとは、Students' Organization for Self-help and Official Support のことで、本学の学生相互支援（ピア・サポート）活動組織を指しています。また、そのような活動を大学として公的に支援していこうとするものです。

高知大学におけるS・O・S活動の歴史は古く、1997年度に導入された新入生のパソコン必携がきっかけとなります。当時はまだパソコンが普及しておらず、パソコンの知識を有する学生が、パソコンの扱いになっていない学生を教えるというピア・サポート組織が立ち上がりました。2000年10月には「学生による高度情報化支援組織」が設立され、S・O・Sという名称のもと、大学が学生の活動を支援していくこととなります。学生による支援の輪が広がり、2003年度には「国際交流協力セクション」が増設されました。また、2004年度より高知大学教育創造センターがS・O・Sを担当し、「学生相互支援企

画」および「プレゼンフェスタ」を通じてS・O・S活動の再構築を行ってきました。そして、学生による活動の多様性に対応すべく、2006年度からは活動の目的を「学生ピア・サポート」と「地域活動・地域貢献」の2つの領域と設定し、学生の申請による支援を開始し、より学生の自主性・自律性を涵養できる体制を整えました。2009年度より総合教育センター留学生・修学支援部門へ、2011年度より修学支援部門が担当しています。また、平成24年度よりリエゾンオフィス コラボレーション・サポート・パーク（通称 コラパ〜）が学生支援の拠点となりました。



◎過去の取り組み
就活会の就活カフェ



◎過去の取り組み
防災すけっと隊の東北地方太平洋沖地震
義援金募金活動
HPアドレス <http://kochidisaster.web.fc2.com/>

S・O・S認定活動の組織

S・O・S認定活動の運営はS・O・S支援部会が行っており、現在は5名の教員で構成しています。S・O・S支援部会の活動目的は、①学生による多種多様なピア・サポート活動の発掘（募集）と拡大、②相互支援活動組織である各プロジェクトチームの支援の充実、③新しいS・O・S活動及びS・O・S支援活動システムの定着と検証、です。毎年春には、学生からの申請に基づき、その審査および採択の可否決定を行っています。また、年に2回開催される活動報告会や、「秋の相談ウィーク」、「Sパ〜祭り」を通

じて、S・O・S支援部会から活動の指針となるアドバイスがなされ、学生にとってブラッシュアップの場となっています。

さらに、各々のプロジェクト（学生団体）には、1名のプロジェクト支援教員がいて、学生活動の指導・サポートにあたります。学生の主体的な活動を尊重しながら、S・O・S支援部会、プロジェクト支援教員、学生支援課がそれぞれの立場からアドバイスを行い、学生の自律的な能力の形成に寄与することをミッションとしています。

S・O・S支援部会

玉里恵美子	部会長	総合教育センター修学支援部門長 准教授
辻田 宏	委員	共通教育実施機構／総合教育センター大学教育創造部門 教授
池田啓実	委員	人文学部／総合教育センターキャリア形成部門 教授
小島郷子	委員	教育学部 教授
今城逸雄	委員	リエゾンオフィス室長／総合教育センター社会協働教育部門 特任講師



高知大学における学生の自主的・組織的活動の流れ

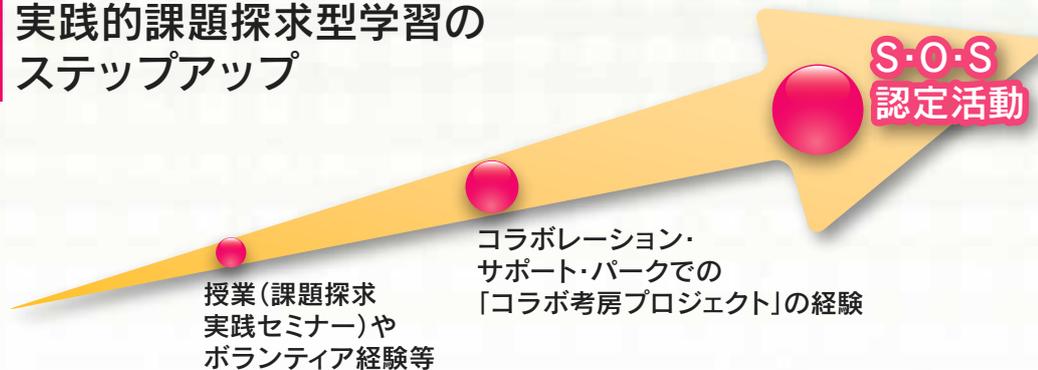
本学では実践的課題探求型教育に力を入れて取り組んでいます。共通教育科目の課題探求実践セミナーを通じて見たり・聞いたり・体験したりしたことをきっかけに、多くの学生が「自分も何かをしたい」と能動的な活動をするようになります。朝倉キャンパスの「コラボレーション・サポート・パーク(通称 コラパ〜)」では、主に1~2年次生に対して「コラボ考房プロジェクト」を実施しており、学生のやる気と企画を支援しています。

本学には2008年に発足した「高知大学防災すけっと隊」という学生団体があります。防災すけっと隊の活動内容は、南海地震に直面する高知県において次世代を担う小・中学生や高

校生に対して防災教育を行ったり、若い人の力が不足している地域での防災活動を行ったりすることです。防災すけっと隊は2009年にコラボ考房の支援を受け、2010年にはS・O・S認定団体になりました。そして、地道な活動を継続発展させながら2012年には本学の課外活動団体(サークル)に登録されます。

このように、学生の自主的・組織的活動の展開の流れが少しずつ形になってきました。コラボ考房で生まれた活動の芽を花開かせるため、S・O・S認定活動として見守っていくことも大切な役目だと思います。

実践的課題探求型学習のステップアップ



サークル昇格

新たな活動へ

S・O・S認定団体になるためには

学生団体がS・O・Sとして認定されるためには、学生の申請に基づきS・O・S支援部会の審査を経て、採択されなくてはなりません。S・O・Sに申請しようとする団体は、①すべての学生に対して門戸を開き、②その活動に公共性があり、③学生が相互に支援する活動である必要があり、本学の公的組織S・O・Sとして認定されれば、一定の財政的な支援やアドバイスが受けられる仕組みになっています。

また活動の領域は、①学生のためのピア・サポートを目的とした活動、②地域活動・地域貢献を目的とした活動、の2つに設定しています。

本書は2013年度に採択された9団体の活動報告書です。コラボレーション・サポート・パークで行っている「コラボ考房プロジェクト」の紹介や、各団体で活躍中の学生の声も掲載しています。学生のみなさん、S・O・S認定団体と一緒に活動してみませんか？ また、自分たちでプロジェクトチームを作ってS・O・Sに挑戦してみませんか？ 毎年、春(5~6月頃)に公募があります。構内の掲示板やグループウェアを良く見ておいてください。

S・O・S活動に関する相談は一年中受け付けています。



©リーダー会議の様子



地域と大学の「架け橋」になることを目指し、学生目線で地域活性化を図る!

▶ わっ花 —花を通じて繋がる— あぐりい〜ず

活動目的

学内に花を植えるなどの大学の美化活動、いの町是友地区の方々との花街道づくりや夏祭りの企画運営などを通して、大学と地域をより密接に繋げ活性化を図ることを活動目的としています。



農学部七夕祭り

今年度の活動

今年度、あぐりい〜ずはメンバーの大半が農学部生ということもあり、昨年度とは異なり農学部物部キャンパスでの活動を活発に行いました。具体的には、7月に農学部図書館前に笹を設置し、学生や教職員に短冊に願い事を書いてもらう七夕祭りや、農学部新たに造ったあぐりい〜ずの花壇「あぐ壇」で、ヒマワリやパンジーなどを咲かせたりしました。

七夕祭りは、イベントが少ない農学部で何かしようと思ひ企画しました。休み時間になると多くの方が笹の前に集まり、他の人の願い事を読んでそれを会話の種とし、盛り上がっていました。一週間行った七夕祭り最終日には、笹飾りや短冊が吊るす場所がないほどいっぱいになりました。7月から始めた「あぐ壇」での花植え活動は、物部キャンパスで学内美化活動を行うことで、継続した活動を行うために始めました。雑草が生い茂り、大きな石がたくさん転がっていたため花壇作りは思った以上に根気と体力が要るものですが、その分ヒマワリの花が咲いた時の感動はとても大きいものでした。七夕祭り、あぐ壇での花植えのおかげで、農学部で「あぐりい〜ず」は広く認知されました。

また、あぐりい〜ずは今年度初めて11月3日の農学部一日公開に出店しました。そこで自分たちで育てたサツマイモを使った蒸しパンを販売しました。お店は大繁盛しサツマイモ蒸しパンは完売しました。お客様の中には何度も来

店し購入してくれた方もいました。野菜づくりの経験から作物を作る大変さを知り、農作業を共にしたことによりメンバー間の絆がまた一段と深まりました。

いの町是友地区での活動としては、7月に是友夏祭り、2月に第3回は友演芸会に企画参加しました。夏祭りであぐりい〜ずは、冷やしフルーツと冷やしきゅうりを販売し、その時に地域の方々との会話を楽しむことが出来ました。演芸会では、高知大学からは奇術部とアカペラサークルにパフォーマンスをして頂き、是友地区からは詩吟愛好会の方々に詩吟を披露して頂きました。私たちあぐりい〜ずも〇×クイズを行い、会場を盛り上げることが出来ました。第3回を迎え、是友演芸会に来て下さる地域の方々の数も年々増え、演芸会が地域のイベントとして定着してきたことを実感しました。



農学部1日公開

「あぐ壇」で咲いた
ひまわり

これからの活動

あぐりい〜ずは、活動を始めてから5年目に入ります。一期生である先輩方も卒業し、世代交代を行いました。あぐりい〜ず設立当初から活動をずっと続けてきた花街道も4月には完成となります。私たちはこれから是友の方達と、もっと親交を深めるようにゲートボールを一緒に楽しんだり、是友地区がもっと活発になれるように、絵馬ロードや夏祭りの手伝いをどんどんしていきたいと思ひます。また、新たな活動も企画して行う予定です。これからもあぐりい〜ずは邁進していきたいと思ひます。

先輩からのメッセージ

農学部 3年生
佐藤 由佳さん

これまで是友地区での活動を中心に行っていたあぐりい〜ずでしたが、農学部での学内活動を充実させたいというメンバーの思ひから、ひまわり栽培や一日公開で出店など、今年度は更に活動の幅を広げることが出来ました。このように、自分たちのやってみたくいという思ひを実現化できるのがとても楽しく、やりがいのある活動だと感じています!

学生パワーで若者の献血離れを食い止める!

▶ 献血推進プロジェクト いのちのリボン

活動目的

いのちのリボンは献血推進のためのボランティア団体です。いのちのリボンは私達が通っている高知大学学内の献血者数を1人でも増やすことを目的とした団体です。現在若年層の献血者数が減りつつあります。そこで若年層の献血者を増やすには同年代の若者が声をかけること、呼び込みをすることで献血が身近なものとして感じてもらえるように、若年層の献血離れを防ごうと活動しています。

今年度の活動

学内での献血推進活動として①献血カーが学内に来た際の呼び込みや宣伝、②献血情報誌である献血ウォーカーの配布、③団体のPR活動などが挙げられます。その中でもメインになるのが献血カー来校時の献血者の呼び込み・宣伝活動です。具体的には、献血カーの近くでホワイトボードを使って必要な受付人数を掲示したり、オリジナルのチラシが入ったティッシュを配りながら、献血の協力をお願いする声掛けなどを行いました。また、団体のPR活動においては、文化祭での活動写真の展示をするなど、様々な学校行事に参加しました。

学外では日本赤十字の学生奉仕団として活動してきました。子供たちと交流する抱っこボランティア、青年赤十字奉仕団研修会に参加、また、赤十字フェア、リーダーシップトレーニング、オレンジリボン、ねんりんピック、救護訓練活動、青少年赤十字研究大会、NHK海外たすけあい募金活動などさまざまな赤十字の活動にボランティアとして参加しました。抱っこボランティアはメンバー全員が定期的に参加し、子どもたちとふれあい、楽しい時間を過ごしました。メンバーが様々なボランティアに参加してそれぞれが感じることや思うことがたくさんあり、ボランティアを通じて貴重な経験をし、やりがいを多く感じられた一年間でした。

これからの活動

抱っこボランティアへ定期的に参加すること、次に、メンバー全員が赤十字救急講習会に参加し、救急員の資格を取ること、そして、赤十字のさまざまなボランティア活動に参加していきたいと考えています。このようにいのちにつながる活動を続けていくことで、地域に貢献し、誰かの役に立ち、自分たち学生も社会の一員であるという意識とボランティア精神を高めていきたいです。



献血学内呼びかけ

オレンジリボン
キャンペーン



高知大学学生赤十字奉仕団



赤十字フェア
車椅子体験

人文学部 2年生
山崎 早也佳さん

学生のメッセージ

私は今年いのちのリボンに入りました。以前は消極的な性格でしたが、献血の呼びかけをする中で積極性や度胸の強さが身につきました。また、私の呼びかけにに応じてくれる方がいるのを知り、嬉しさややりがいを感じました。他にも各種ボランティア活動などを通して学生だけでなく子どもから大人まで幅広い層との出会いがあり、充実した一年でした。

フェアトレードを通じて高知から世界の「**貧困問題**」にアプローチ

▶ 高知大学国際協力団体 すきっぴ

活動目的

「すきっぴ」は地域や学内のイベントを通して幅広い年齢層の人たちにフェアトレードを知ってもらい、世界の貧困の解決に向けて活動をしている団体です。

今年度の活動

すきっぴでは週2回のミーティングの他に全体での会議も随時行い、活動内容や今後の活動の方向性について話し合いの場を設けています。

今年度はSパー祭りや新歓・親睦会を通じて例年に比べてメンバーの増員を図ることが出来ました。また夏には新たな取り組みとしてカンボジアへのスタディーツアーを行い、発展途上国の現状や現地で活動しているフェアトレード団体の活動を見てきました。その際、カンボジアを拠点に活動しているNPO法人かものはしプロジェクトを訪問し、そこで取り扱っているフェアトレード商品を黒潮祭で販売しました。帰国後には報告会を通じてメンバーとの共有も図ることができました。

他団体との取り組みとしては、9月末に行った高知大学医学部を拠点とする「アジア僻地医療を支援する会」との交流会でワークショップ等を通じて国際問題への理解を深めると共に連携を図りました。学内の活動としては1月には青年海外協力隊員としてラオスに派遣されていた方を講師としてお招きし、講演会を行いました。またこのほかに、前期にはフェアトレードコーヒー試飲会を行い学生に向けてのフェアトレードの認知向上も試みました。

これからの活動

今年度はフェアトレードコーヒー試飲会やSパー祭、講演会など大学内での取り組みが増えたもののアンケートの結果からもすきっぴそのものの認知度はまだまだ低いということが分かりました。そこで今年度行った新歓やスタディーツアー、黒潮祭での出店は継続しながら、新たにワークショップなど大学生に向けての内部発信を行うことも考えています。また夏のスタディーツアーは新入生も含めて来年度も引き続き実施する予定です。

現在「フェアトレード」という言葉は徐々に広がってきてはいますが、まだまだ認知度は十分とはいえません。実際に言葉はきいたことがあってもそれがどのようなものか理解していない人も多いと思います。私たち自身も一人ひとりがフェアトレードを伝えられるように定期的に勉強会を行いながら、生産者としてより深いつながりのあるフェアトレード団体を目指し、彼らの現状をよいものに変えることを目標として、これからも活動を続けていきます。



新歓の様子



フェアトレード
コーヒーの試飲会



すきっぴ合宿
@室戸青少年自然の家



カンボジアへの
スタディーツアー

学生のメッセージ

人文学部 2年生
大若 玲奈さん

私がこの活動を通じて変わったと感じるのは考え方です。実際にカンボジアへスタディーツアーに行ったり、ワークショップで世界の格差や現状を知ること、今まで日本という枠組みの中で当たり前だったものが当たり前じゃなくなり、今までただ聞き流していたり見過ごしていた国際問題に関心を持ちたり逆に日本の社会問題にも目がいくようになりました。

企業を取材し、番組を「発信」 “ウラ学”を社会へ!

▶ 高知大学生が行く ウラ学のススメ ウラ学同好会

活動目的

私たちウラ学同好会の活動の目的は、社会にある企業を取材し、番組としてまとめその際に練りだした“ウラ学”を社会へと発信し、共有することです。

今年度の活動

今年度は、新しくS・O・S認定団体として活動しました。まず、一番中心となる番組制作では、「交通公園」、「エッグメール」、「NPO法人土佐観光ガイドボランティア」を取材し、番組を制作しました。大きく変わったことは、S・O・S資金で高知ケーブルテレビ協力金が出たことで、カメラマンが外注の方に変わり撮影を進行する上で、ディレクターの役割が大きくなったことです。これまでは、構成表を作り、撮影スケジュールを組み立てても、撮影カットは現場で決めることがほとんどでした。しかし、撮影をスムーズに進行するためには、事前に撮影カットを練り、高知ケーブルテレビの戸田様をはじめ、撮影に協力くださるスタッフや、出演者の方の的確に伝える必要があります。自分たちが作る番組がどのように見られるのか、考えながらミーティングの段階から話し合い、構成表を作る努力をしています。

また、新たに1年生のメンバーも3人加わり活動を継続していく見通しも立ちました。新メンバーと新しいS・O・Sとしての活動をするなかで、これまでの活動を振り返る機会もありました。昨年10月19日に行われた「産学官民コミュニティ全国大会」です。ここで、私たちウラ学同好会は、企業を取材し映像制作をしている学生団体として、プレゼンテーションをしました。かつてのブラッシュアップ会とは大きく違う雰囲気緊張してしまう場面もありましたが、その後の交流会で多くの企業の方や、役場の職員の方と名刺を交換しました。インターンシップでもなく、企業説明でもなく、学生団体として企業の方とつながりを持ち、関われるチャンスを得難さを感じました。

これからの活動

これからの活動としては、1つ目の目標は、上映会の運営を軌道に乗せることです。今年は無事に黒潮祭で上映会を開くことができました。その時は、学生だけでなく社会人にも見てもらうことができました。しかし、月1回上映会に関しては、企画して実施しても満足のいく集客ができていません。これでは、上映会にて番組の評価をしてもらい、制作技術の向上につながりません。2つ目の目標は、スケジュールの管理です。企業と密接につながっているため、スケジュールの管理は必須です。期限を設定していても、ぎりぎりまで決定し、行動できないこともありました。今後改善していきたいと思えます。



第7回産学官民コミュニティ全国大会でウラ学同好会のプレゼンを行っている様子



エッグメール撮影風景
リポーターと手塚さん(エッグメールの社員)とのやりとり



学内で行った「高知大生が行くウラ学のススメ」上映会の呼び込み風景

学生のメッセージ

理学部 1年生
黒石 由人さん

皆さんは会社をどう思っていますか。私は高校生のとき、なんとなく大企業に入らなければならない。そう思っていました。しかし、取材したいくつかの中小企業を通してその考えは変わりました。それぞれ皆、熱意や誇りをもって働いていたのです。教師になるつもりで大学に入りましたが、企業について考え直す機会を得ることができました。

高知の“やばい(良いところ)”を発見! 高知大生に『伝えたい』

▶ インプット高知 はちきんチェルシー

活動目的

はちきんチェルシーは高知の情報発信をしている団体です。高知大生は、県外生が多く、高知の魅力を知らず過ごしてしまう大学生が多いのではないのかと感じたことがきっかけで活動を始めました。大学4年間のうちに高知のことを知ってもらうことで『高知を説明できる高知大生』を作りたいと思っています。高知大生に私たちが感じた高知の良さを私たちに発信し、インプットしてもらい、またその情報をアウトプットして欲しいと考えています。



「糸吉」取材風景

今年度の活動

はちきんチェルシーは平成23年6月からコラボ考房で支援をして頂きながら活動してきました。コラボ考房での支援が終了したため平成24年5月からS・O・S団体として活動をはじめ、活動としては高知の情報発信ということをメインとしています。前年度までは高知の情報発信をメインとして活動を行ってきましたが、今年度は、今までの「はちきんチェルシー」とは少し違った活動も行ってきました。

一つ目は高知県青年にぎわいポニートさんとコラボしてフリーペーパー「糸吉」を発行させて頂いたことです。「糸吉」とは高知県の青年活動を取り上げ、高知県で活躍している方を紹介するものです。私たちの活動目的である高知の良さを発信していくことと共通するものがあつたため、このコラボをさせて頂くことになりました。今まで、はちきんチェルシーは高知の「場所」をメインとして発信してきましたが、高知の「人」を発信することは初めてだったので、少し戸惑うこともありましたが、実際に取材にいき、高知で活躍されている方のお話を聞くことは、「糸吉」を作成するモチベーションも高めてくれました。また、「糸吉」の制作ははちきんチェルシーとしても転機となり、自分たちのスキルアップにも繋がったのではないかと感じます。

二つ目は、自律協働入門の授業の受け入れ団体を行ったことです。はちきんチェルシーはメンバーが同じ学年で構成されており、下の学年の子と活動を行うことがありませんでした。今回、受け入れ団体として後輩たちに指示したり、一緒に活動を行うことは団体として良い経験となったと思います。

これからの活動

今年度もブログやフリーペーパーを使った情報発信も継続して行ってきました。この二つは私たちの活動の軸となつているので、今後もはちきんチェルシーらしさを忘れずに活動を行っていきたくと思っています。



フリーペーパー「糸吉」



フリーペーパー「やばいやないか?!」

先輩からのメッセージ

人文学部 3年生
梅原 真亜子さん

今年度の活動は、いつもとは違う層の人たちをターゲットにしたフリーペーパーだったので、レイアウトはとても悩みました。毎日集まってパソコンと向きあい嫌になる事もありますが、メンバーといろいろ悩みながら作る時間は楽しく、完成したものを実際目にしたときの感動と達成感は本当に毎回やってよかったと思います。活動以外での時間も一緒に過ごすことが多く、切り替えやスケジューリングが甘い部分もありますが、とても楽しくにぎやかに活動できています。

“高知大学を楽しむためのトッピング”情報を発信

▶ 高知大フリーペーパー発行 Boshipan

活動目的

こんにちは。私たちは、学内フリーペーパー『Jam』を製作している学生団体、Boshipanです。『ちょっとオイシイ高知大ライフ』をテーマに、皆さんの大学生生活にちょっとした彩りを添える情報をお届けすることを目的として、冊子を作成しています。現在はライター6名、デザイナー4名の10名で活動しています。季刊で発行しており、冊子形態は春と秋に発行している約30ページの『Jam』と、夏と冬に発行しているA3サイズ1枚の紙を折り畳んだ形の『mini Jam』の2種類です。私たちの製作した『Jam』を手にとってもらうことで、モヤモヤしている大学生生活をどうにかしたい人、楽しみを求めているけれど見つけられない人に、喜びや充実感に繋がるきっかけとなるものを提供していきたいです。



スナップ撮影風景



会議風景



取材風景

今年度の活動

2013年度は通常発行の『Jam』を安定して発行しました。従来のB5サイズからA5サイズへと冊子形態を変化させたことで、ページ数を増加させることが可能になりました。今年度の春号と秋号では、冊子自体を分厚くボリュームアップさせる方法で、より密度の高い、充実した内容のフリーペーパーの作成に挑戦しました。加えて、活動告知のポストカードの作成にも引き続き取り組みました。また、取材範囲を大学周辺だけでなく高知県内へと広げたことで、県外出身の学生にも高知について知って貰う機会を増やすことができたのではないかと感じています。更に、facebookページでの広報活動も本格的に始動しました。取材現場の裏側や製作過程のこぼれ話などを掲載しており、ネット展開を図った事で、『Jam』がより高知大生にとって身近な存在になったのではないかと思います。



Boshipan facebookページ

これからの活動

1997年に『Jam』1号が発行されてから今年でBoshipanの活動は7年目に突入します。長い活動の間に培われた活動方針を大切にしつつ、従来の形に捕われ過ぎない新しい『Jam』を提供していく予定です。高知大学での生活がより充実するような内容を目指し、思わず冊子を手に取りたくなるような見せ方や企画を実践していきます。製作している私たちも、読者の方たちも、双方が楽しめる活動を行っていきたくと考えています。同時にさらなる周知率の向上を目指して、設置場所の拡大やWebでの活動報告にも力を入れていく所存です。読んでくださっている方への感謝の気持ちを忘れずに、これからも製作に励んでいきたいと思っています。

学生のメッセージ

教育学部 2年生
古長 結実さん

Boshipanでは冊子を製作するにあたり、企画出しや取材、記事の校正から広告を取りに行く活動まで全てメンバーで行います。活動を通して、ものを作る工程、その楽しさや難しさ、出来上がった達成感、冊子を手にとっていただけた時の喜び……本当に様々なことを知ることができました。これからも挑戦することを忘れずに活動していきたいです!

香北町の高齢者たちが **生き生き過す** お手伝い!

▶ 高知長寿いきいきプロジェクト 百遊会

活動目的

百遊会は香美市香北町の『元気な』高齢者たちのレクリエーションの会で、私たち学生は会の運営や進行のお手伝いをしています。百遊会の目的として、

- ・高齢者のQOL向上、ひきこもり防止
 - ・生き生きと長生きする秘訣を探る
 - ・学生のコミュニケーション能力、グループ運営能力の向上
- などがあります。一番上は97歳(!)という、元気で個性豊かな高齢者たちとレクリエーション活動を介して関わることで、高齢者が楽しむだけでなく自分たちも楽しく学ぶことができます。



牧野植物園にて

今年度の活動

百遊会では毎月1回、土曜日または日曜日を活動日としています。現在は高齢者9人、学生11人が参加していて、毎月の活動は毎回学生3~5人と高齢者たちで行います。

人手不足のため一時は活動休止していましたが、6月に活動を再開。今年度は保健福祉センターや岡豊キャンパス看護学科棟などを利用して、川柳の会や室内ベタンク、映画鑑賞会、新年会などを行ないました。

百遊会は、「高齢者が中心となって、積極的に参加する」ことを大切にしています。例えば活動内容を高齢者が決めるだけでなく、室内活動で使う机、椅子の準備や片付けも、学生だけでなく高齢者と協力して進めるようにしています。高齢者ひとりひとりの様子を見ながら、それぞれのペースでみんなが参加できる活動を意識しています。



お昼は外で食べることも



クリスマス会

これからの活動

百遊会ではレクリエーションの内容だけでなく、定期的に皆で集まることで高齢者同士、高齢者と学生との交流の機会をつくることにも意味があると考えています。学生の都合が合わず日程調整に苦心することもあります。今後も毎月1回の活動を続けていきます。内容についても、今年度は室内での活動が主でしたが、来年度はお花見や紅葉狩りなど、季節に合わせた屋外での活動も計画しています。

百遊会の活動が長くなるとともに、参加者も少しずつ歳を重ね、以前ほど活発に動けないという方も出てきました。身体能力が衰えても、それぞれの体調に合わせて活動に参加できるように、こちらが用意したものをただこなすだけ、ただ眺めるだけの受け身のレクリエーションにならないように、内容を工夫していきたいと考えています。

今後も高齢者と学生と一緒に楽しめる百遊会を大切にしていきます。



新年会での福笑い

学生のメッセージ

医学部 1年生
藤川 幸奈さん

百遊会の活動を通して、高齢者の方々と接する機会を頂き、多くのことを学ぶことができました。高齢者の方々はとてもお元気で、明るく、初めて緊張していた私たちにも優しく接してくださいました。川柳作りや映画鑑賞などを一緒にさせていただいて、楽しんでもらうことができ、嬉しかったです。医療系に進む私たちにとって、たくさんの方が得られました。

大学と地域をむすぶ学生ボランティアセンター(SVC)

▶ +Bousaiプロジェクト 高知大学学生ボランティアセンター

活動目的

我々の活動目的は、学生と様々な“つながり”を作ること
で災害時に地域の避難所の拠点となることです。

今年度の活動

上の目的を達成するために、今年度は多くのイベントに
参加し、つながりを作りました。いくつか事例をピックアップ
して紹介していきたいと思います。

年度の初めにまず行ったのは4月16日の「Sパー祭り」で
す。準正課活動を行っている団体が一堂に会し、それぞれの
活動を新入生に向けて、またお互いに向けてアピールしま
した。ボランティアセンターはここで改めて学内に多種多様
な団体があることを確認し親睦を深めることができました。

9月には「防災ピギナーズキャンプ」というイベントを主
催しました。これは災害後の避難所を一泊二日の短期間で
経験し、すこしでも防災意識を持ってもらおうというもの
です。学内だけにとどまらず、県内全域に参加を呼びかけ高
知県立大学、高知工科大学の2大学と春野高校からの参加
者を迎え入れました。

11月には高知大学の学園祭であ
る「黒潮祭」に地域の方とともに出
店することができました。今まで積
み重ねてきた信頼をここで一つの形
にすることができたと思います。さ
らに引き続いて「全国ボランティア
フェスティバル」に参加しました。そ
の名の通り全国からそれぞれの形
でボランティアを行っている団体が



福島での仮設支援ボランティア



針木西の防災訓練

高知に集まり、2日間にわたって一般の参加者とともに交流
しました。私たちは高知県立大学と大阪大学のボランティ
ア団体とともに「学生から見たボランティア」について発表
しました。そこで全国の学生同士のネットワークを築くとと
もに、大学職員の方ともつながりを持つことができました。
創設以来もっとも大きなイベントでしたが、多くの方の協力
を得ることで成功を収めることができました。

また、これら外部での活動の合間を縫って団体の再編と
組織化を考えました。それにより見えてきた課題を洗い出
し、次年度に生かしていきたいと思っています。



朝倉神社
の夏祭り



京都での災害ボラ
ンティアの様子

これからの活動

引き続き“つながり”を作る活動を続けます。「あさくらま
ちづくりの会」と協力して高知大学を含む朝倉地域を盛り
上げていきたいですし、さまざまな学生ボランティアの形を
知るために、全国の学生とつながっていききたいと思います。
そしてさらに学内でのつながりを強化したいと考えていま
す。そのためにしばらくの間、いくつかの学生団体と協力し
て取り組んでいる「フィリピン支援」を引き続き行いたい
と思います。そしてそれが落ち着いた後、多くの団体と協力し
たことから得たことを生かして次の新たな活動を模索して
いきたいです。

人文学部 2年生
有働 拓馬さん

学生のメッセージ

今年度SVCは、地域活動、学内活動など、多くの
活動に参加させていただき、その場において地域の
方々、社会福祉協議会の方、学内の学生、他大学の
学生と、非常に多くの方々と交流を持つことができ、
私たちSVCにとっても得る物が多かった年になりま
した。今後も、様々な方との縁を保ち、新しい出会い
を求めて努力していきたいです。

就職活動のための「情報」や「意見」が飛び交うカフェ ☕

▶ 就活生活プロジェクト ジョブハン

活動目的

まずは、自分たち自身が就職活動に入る前にどうすればうまくいけるかを学ぶことが目的でした。しかし、自分たちだけの活動だけでは限界があるし、もったいないということで就職室を相談相手として活動したいと考えました。そして、活動に参加してくれた学生がやりたい仕事を見つけて就職するために、同じ意志を持つ学生同士が集まり情報交換や意見交換を行うことで個々の意識を高めるより良い場を作ることを目的とすることを決めました。

今年度の活動

ジョブハンが開催したリクルートカフェは合計3回行いました。

第1回リクルートカフェでは、内定の決まった理学部の先輩の方3名に来てもらい就職活動の体験談や失敗談、注意すること、感じたことを座談会形式で話してもらいました。また、先輩と参加してくれた学生が親くなれるようにとアイスブレイキングを用意し、みんなで行いました。参加してくれた多くの学生が「大学が行う就職セミナーでは聞けないことが聞けた。」や「具体的なこと細かいことが聞けた。」という声をいただきました。自分たちとしては、前もつての宣伝、時間の管理、不測の事態の対処などが反省点としてあがりましたが1回目が無事終了してよかったということでした。

第2回リクルートカフェでは、自分たちが話し合って疑問に感じたことを解決してもらおうと外部の方と触れることに慣れるために就職室の紹介からマイナビの坂田さんにお越し頂いて2時間の講義をしていただきました。テーマは、「地方学生の強みと今からすべきこと」です。参加してくれた学生の中には2年生もいました。学生たちは、「テーマを絞っていたのでイメージしやすかった。」や「知っておいた方がいいことがたくさんあって勉強になった。」という声を



第2回・第3回リクルートカフェのイベントポスター

いただきました。自分たちとしては、前回の反省点である3点を注意して会を進行し特に問題なく終了しました。しかし、講師への謝礼金の件などあいまいなどがありました。

第3回リクルートカフェでは、12月の就職活動開始に向けて意識を高めるためや就職活動で使うノウハウを学ぶため、就職室の井上さんを講師にお呼びして履歴書・エントリーシートの書き方を学び、自分たちで実際に書いてみるということをしました。学生たちのアンケート結果を見ると、焦る、不安、次に〇〇をしよう、といった回答が目立った。講義を受けてこれからどう動くか何をするかを頭の中でイメージし、行動に移すことが推測できる結果となりました。また、今回のリクルートカフェでは以前とは違ったセミナーになりました。それは、友人、知人を呼ばなくても多くの方が来てくれたことです。考えられる要因は、今回のリクルートカフェが3回目で知名度があり、10月24日(水)の就職室が行っている就活セミナーの続きになっていたということあと、テーマを見て会自体のイメージがでやすかったということでした。

これからの活動

まず、自分たちの就職活動に専念して、その活動を通して大切だと感じたこと、すればよかったことなどを、リクルートカフェで順序立てて伝えていきたいと考えています。3年生の気持ちと就職活動での気持ちを両方経験しているので、相談などにも乗れると考えています。最後に、同好会の人数を増やしたいです。今は3人しかいませんし全員4年生なので続けることができません。だから、仲間を増やしてどんどんジョブハンをつなげていきたいし、もっと大きな会もしてみたいです。

先輩からのメッセージ

理学部 4年生
鍋嶋 僚汰さん

ジョブハンの活動は、初めてやることばかりなので大変でしたし、全く認知度が低い団体なので興味を持ってもらうのが難しかったです。しかし、何回もイベントをしてみたり告知の方法を変えてみたりすることで、多くの人が集まるいいイベントになり自分たちの自信になりました。私は、ジョブハンを作って、S・O・Sに入って良かったです。

2013年は、こんな活動にも挑戦しました!

高知大学ホームページでは、様々な学生の主体的な活動を「学生目線」で報告しています。ぜひ、ご覧下さい。 <https://olss.cc.kochi-u.ac.jp/collabo/>

高知大学 社会協働 検索

全国交流集会(東京)へ学生を派遣!

2月27日～28日に東京で行われた「第1回学生ボランティアと支援者が集う全国研究交流集会」に学生を派遣しました。

今回の交流会で思い知らされたのが、各団体それぞれ組織がしっかりしており、目的意識もしっかりしているという印象を受けました。次の第二回では、もっとうちの団体はこんなことしていますなど、いわゆるネタをたくさん持っていけるようになりたいと思います。
(理学部1年生/学生ボランティアセンター/瀬尾奎太さん)



S・O・S×コラボ考房プロジェクト×SBIによる「Sパ〜祭」開催!

4月17日、S・O・S認定団体、コラボ考房プロジェクト、SBインターンシップなどで活動する学生たちの「祭り」が朝倉キャンパスで行われました。会場となった共通教育の教室には自分たちの活動を紹介するパネルや制作物がずらり。活動をアピールしました。



全国ボランティアフェスティバルへ堂々参加!

11月23日～24日に高知で「時代を拓く 市民力(シチズンパワー)ぜよ」をテーマに「第22回全国ボランティアフェスティバル高知」が開催されました。史上初(?)学生運営分科会を成功させた「学生ボランティアセンター」は、全国各地から学生を招き、学生ボランティアセンターが行う地域活動や、被災地支援を通じた継続的な学生のネットワークについて意見交換をしました。

僕たちにとって全国ボランティアフェスティバルは、一つの目標でした。当日は、今までできてなかった活動助成などといった団体を維持する上での具体的なことが話しあえました。そこで、次のステップも見つかりました。なかなか難しいことが多かったけれど、最後までやりきって、またこれから頑張ろうと思っています。
(人文学部2年生/学生ボランティアセンター/有働拓馬さん)



ラジオ出演もしました!

高知大学の取り組みを紹介するラジオ番組「THEこうちユニバーシティ CLUB」への出演オファーをいただき、「いのちのリボン」が出演しました。

今回ラジオに出演させていただいて、自分たちの活動を知らない人に伝えるには自分たちの活動を細かく把握しておくことが大切であると感じました。
(農学部2年生/いのちのリボン/中村美貴さん)
普段大人しい印象の後輩二人ですが、活動を始めたきっかけや団体の今後についてしっかりと意見を述べていました。その姿を見て、いのちのリボンの活動は今後も続き、飛躍していくと強く思いました。
(人文学部4年生/いのちのリボン/前田みゆきさん)



コラパ〜へ行ってみよう!



IKUS(朝倉キャンパス生協)2階にある、コラパ〜へ行ったことはありますか?

コラパ〜とは、正式名を「リエゾンオフィスコラボレーション・サポート・パーク」といい、地域・社会とのつながりを通し学ぶ学生を支援しているオフィスです。

コラパ〜には、大学生のうちにチャレンジしてみたい、ツアーや、イベント、インターンシップなどの情報がたくさんあります!新しい出会いを求めている学生のみなさん、ぜひ来てみてくださいね!

やってみよう! その1

仲間と企画実現にチャレンジ! コラボ考房プロジェクト

「自分の持つアイディアで、高知をもっと元気にしたい!」、「やってみよう!」があるけれど、何から始めていいかわからない…」など、さまざまな思いを持っている学生の活動をサポートする仕組みがコラボ考房プロジェクトです。1年間、支援教員とコラパ〜スタッフが、企画のブラッシュアップやチーム作りのサポート、公費による支援などを行います。

企画を整理し形にしていくことは言うは易く行うは難しです。充実した経験ができるよう、教員、スタッフとも学生たちを応援しています。

1年後には、S・O・S認定活動として継続したり、課外活動団体(サークル)として活躍する団体も多くあります。



地域のために看板を制作(みながワイワイ隊)

◎平成25年度の活動チーム

りょうま と見守る会

ラジオドラマ「偉人アイドルプロジェクト 歴sing♪」の盛り上げと、サブカルチャーで地域を活性化することを目指し活動。高知を舞台にした恋愛シミュレーションゲームとコミックを制作。



虹野菜ファーム

四国唯一の限界自治体である高知県長岡郡大豊町の野菜「クルベジ」(クールベジタブル農法で作られた野菜)を使い、大豊町の活性化を目指す。日曜市でのクルベジ販売や大豊町への農業体験ツアーなどを実施。



世界の厨房

高知大学農学部で学ぶ留学生との交流や東日本大震災復興支援が活動の対象。フィジーの留学生との交流イベントの企画・実施や、福島から高知へ避難してきた方との交流イベントなどを企画・実施。



chouchou

おしゃれな就活手帳を作ることを目標に活動を開始。



みながワイワイ隊

黒潮町蜷川を盛り上げるために、活動を開始。廃校を利用した施設「てあいの里蜷川」の存在アピールを目指し看板制作に着手。作品第一弾の小看板を作成し納品したところ。



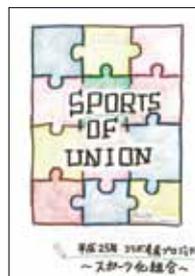
クリーンラボラトリー

学食の残飯量の削減を目指し活動中。世界の食糧事情を伝えるためポスターの掲示し、関心を促す取り組みに着手。



スポーツ化組合

地域のお困りごとをスポーツ化して解決することを目的に活動中。日本スポーツGOMI拾い連盟の協力で、室戸ジオパークと高知市中心商店街で「スポゴミ」を実施。



ほたる飛ばし隊!!

高知大学構内にある池にホタルを飛ばし学生と地域住民の憩いの場にするを目標とする。水質・水源調査、ホタルの勉強会などを実施する予定。



ピアーズ

学童保育に通う子供たちを対象に、知的な好奇心を刺激するようなワークショップを実施中。



鬼ごっこ

平成22年に一般社団法人「鬼ごっこ協会」が開発した競技で、全国174市区町村で開催されている。この競技を高知で実施し、新たな人と人とのつながりを生み出すことで高知を元気にすることを目的とする。



活動するには?

コラボ考房プロジェクトでは年に4回チームの募集を行っています。学内の学部掲示板やIKUS1階などに告知ポスターが掲示されますので、ご覧ください。募集条件は、1年生か2年生をリーダーとした3名以上で応募すること。応募書類はコラボ~にありますので取りに来てくださいね。

やってみよう! その2

3人1組で仕事の現場へ! SBインターンシップ

SBI(人間関係形成インターンシップ)-Society Based Internship-は、3人1組で、現場の業務経験ができるインターンシップです。「働くことや他者と協働することの意味」「自分の人生の目的や目標とそれを達成するために必要な力」について、本気で考える機会を提供します。



実習先での様子



事前学習会は自分を見つめ直すきっかけに

実習するには?

インターンシップの実習は年2回、春休みと夏休みに実施されます。夏休みの実習については5月頃、春休みの実習については11月頃から参加者の募集を行います。朝倉・物部・岡豊キャンパス内の掲示板や、IKUS1階にポスターが掲示されますのでご覧ください。もっと詳しい内容やスケジュールについてはコラボ~にお問い合わせくださいね。

やってみよう! その3

地域を学べるワンデイツアー! えんむすび隊

毎月2回程度、県内各地を訪ねるワンデイツアーを実施。ある時は田舎のおばあちゃんたちと郷土料理をつくったり、また、ある時は山里の運動会に参加したり…。地域の素晴らしさや、地域の抱える問題に触れることで、社会とのかかわりを考え行動を起こすきっかけとなることを目指しています。



地元の方と一緒に茶摘み体験!

ポスターを見かけたら、要チェック!



参加するには?

えんむすび隊は、毎月2回程度随時募集されます。朝倉・物部・岡豊キャンパス内の掲示板や、IKUS1階にポスターが掲示されますのでご覧ください。またコラボ~でメールアドレスを登録すると、募集毎に案内をお送りしますので、興味のある方はぜひ登録してくださいね。

コラボ~活動紹介動画「キャンパスは地域、テキストは人」



くこちらからもアクセスできます
高知大学ホームページ <http://www.kochi-u.ac.jp/>
[高知大学]→[病院・付属施設]→[付属施設、総合教育センター]
→[<動画>キャンパスは地域、テキストは人]

高知大学で学びたい

総合教育センター修学支援部門の取り組み

2011年度より新しい体制となった高知大学総合教育センター修学支援部門は、部門長(専任教員)1名、

1

準正課活動支援について

高知大学には多くの体育系・文化系の課外活動サークルがあり、学生たちは日々活発に活動を行っています。その他にも、授業やボランティアを通じて、新しい活動に挑戦したり、「何かをしたい」と活動を創造しようとする学生たちもいます。このような学生たちに対して、学生の主体的な学びを準正課活動として定着させていくために、総合教育センターの他部門(大学教育創造部門、キャリア形成部門、社会協働教育部門)や、「リエゾンオフィス コラボレーション・サポート・パーク(通称 コラパ〜)」と連携しながら、S・O・S認定団体の支援を行っています。

また、東日本大震災後に被災地ボランティア活動を行った学生を集中的に支援し、学生の主体的な取り組みの中から「学生ボランティアセンター」が立ち上がりました。その後も継続的に学生ボランティアセンターへの運営サポートを行っています。さらには全学生対象の研修やセミナーを開催してボランティア人材の育成と、ボランティア活動強化のための環境整備を図っています。他大学の学生団体との交流にも力を入れています。

2013年度からは、「キャンパス・アクティブ・パスポート(CAP)」を学生に配布し、準正課活動の活性化および学生の積極的な参加を促しています。4年間の大学生活を通じての様々な体験をCAPに記録し、「なりたい自分」に近づいてもらいたいと思います。(平成24年度高知大学教育研究活性化事業(教育改善))



2

障害のある学生への支援について

全国的に身体の障害あるいは発達障害のある学生の在籍数が増加傾向にあります。各学部が抱える課題を整理しながら、障害のある学生をサポートする学生チューターの育成や、教職員への啓発活動を行っています。2013年7月には特別修学支援室を設置し、保健管理センターとも連携して、身体機能障害および発達障害のある学生の修学支援や就職支援についても取り組んでいます。

すべての学生のために

兼任教員3名、学生支援課により組織化されています。修学支援部門では、「高知大学で学びたいすべての学生のために」をキャッチフレーズに、誰もが学びの楽しさ、喜びを感じるキャンパスづくりをめざしています。

現在、修学支援部門で取り組んでいる重点的な項目は、①準正課活動支援、②障がいのある学生への支援、③学生相談体制の充実、④修学情報の発信の4点です。

3 学生相談体制の充実について

高知大学にはアドバイザー教員制度があります。アドバイザー教員は、アドバイザー(学生)が学生生活を送るうえでの困りごとや、進学・就職のことなどに対する相談相手です。各学部で特徴のあるアドバイザー教員制度を整えていますが、その機能充実に向けて全学的な立場から検討を重ねています。学生支援課には「学生何でも相談窓口」があり、保健管理センターでは「こころの相談室」としてメンタル面の相談も受け付けています。

また、2012年度から毎月第4水曜日に「キャンパス・サロン」を実施しています。ひとりでも参加することができ、ふらりと立ち寄ってお茶を飲みながら、ゆったりと話しをすることができるサロンです。(開催場所は、おうちクラブ1階ほっとステーションです。開催日時については校内に掲示しているポスターで確認してください。)



キャンパス・サロンのポスター

4 修学情報の発信

修学に役立つ情報や学生生活のエッセンスをまとめた「修学支援部門のかべしんぶん」を毎月5日に発行し、朝倉・物部・岡豊のキャンパスで学生の目に触れるところに掲示をしています。グループウェアでも配信しています。また、おうちクラブほっとステーション内に「修学支援文庫」として修学支援部門の活動に有用な図書を揃えており、誰にでも貸し出しできるように公開しています。



通称「コラパ～」

▶ S・O・S認定活動についてのお問い合わせ、各団体へのお問い合わせはこちら

高知大学 リエゾンオフィス コラボレーション・サポート・パーク

〒780-8520 高知市曙町2丁目5番1号 IKUS 2階

☎ 088-844-8932 FAX 088-844-8948 ✉ cobo@kochi-u.ac.jp

S・O・S認定活動の一歩手前の
コラボ考案プロジェクトに
ついても載っているよ
コラパ～に是非、来てね。

▶ 修学支援部門の活動についてのお問い合わせ

高知大学 学務課 学生支援課

〒780-8520 高知市曙町2丁目5番1号 ☎ 088-844-8325 ✉ gs07@kochi-u.ac.jp